

SIFA ニュース

わいわい春まつりの前日・当日 ボランティアを募集します

2 年間中止になりましたが、今年はコロナ対策をしながら
4 月 24 日(日)10:00～15:30、イスのサンケイホール鈴鹿
(市民会館)にてわいわい春まつり 2022 を開催します。

※コロナ感染の状況により、ステージパフォーマンスは無観客に
て YouTube 配信する場合があります。

楽しく素敵なお祭りをみんなで作ってみませんか。

助けていただく事は、ステージの裏方、会場受付、
消毒管理ほか会場の設営・撤去です。

予定 4 月上旬 ボランティア説明会

23 日(土) 午後から前日準備、

24 日(日) 当日準備、運営と片付け

※学生さんには、ボランティア証明書を発行します。

※ボランティアの申し込み、お問い合わせは 4 月 15 日(金)までに、SIFA へ



NO. 111

2021 年度 冬号

(公財) 鈴鹿国際交流協会

内 容

[お知らせ]

○わいわい春まつり宿題

○外国につながる児童と長期
休みの

[報告]

○韓国ソサン市とのオンライ
ン交流会

○災害時多言語支援センター
の運営研修

○外国につながる児童の冬休
みの宿題支援教室

○韓国料理レシピ

外国につながる児童と長期休みの宿題 ～3 年間の支援活動の報告～中止のお知らせ

2 月 5 日に予定していた標記報告会ですが、新型コロナウイルス感染拡大による蔓延防止
等重点措置の発出を受け中止する事にいたします。



代替の事業として、これまでの活動を写真や掲載記事等で
振り返るパネル展を実施しますので、ぜひお越しください。

と き：3 月 16 日(水) 9:00 ～ 18 日(金) 16:00

ところ：鈴鹿市役所 1 階 市民ギャラリー

地図→

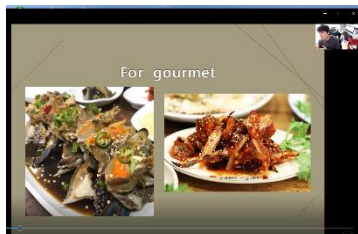


国際理解セミナー

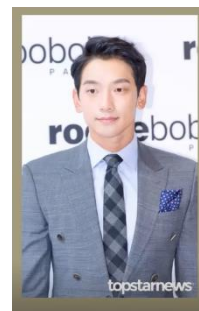
韓国ソサン市とのオンライン交流会

12月11日(日) 午前10時より、鈴鹿市民と韓国ソサン市民によるオンラインの国際理解交流会を開催しました。ソサン市民は約30名、鈴鹿市民は約40名集まり、大変賑やかな交流会となりました。

<両市の紹介>



ソサン市は、三国時代の百済にあたる場所で、その時代から日本との交流は深くありました。面積はソウルよりも広く、海や山、自動車産業があり、外国人が多く住む町というところが、とても鈴鹿に似ているということでした。芸能人 Rain の故郷でもあり、毛ガニが有名だそうです。特に、辛いヤンニョムケジャンは日本人にも人気があり、ゲクッチというカニを使ったキムチはとても美味しいので、ソサン市に来たら是非食べて欲しいと紹介がありました。



<交流会>

ふたつのセッションに分けて行いました。どちらのセッションも、韓国のメディアグループ Link が作成したビデオを観て、そこから得た題材に沿って懇談をしました。Link は、ソサン市の民間映像制作グループで、メディアを通じて社会を良い方向に変えたい！という思いで設立された市民グループです。

今回ビデオを製作する際は、コロナの疲れた状況下でも、明るい姿でそれを克服するソサン市民の生活に触れて明るい未来を描きたかった、と Link のみなさんがおっしゃっていました。

*セッション1

まず、ソサン市民の生活を映したミュージックビデオを観ました。

その後とてもたくさんの質問がありました。

鎮南門の建物について、屋台で売られている揚げ物や今韓国で人気の食べ物やキムチについて、朝鮮時代の伝統的なヤンバン(貴族)の遊びについて、漢字について、ビデオの中で走っていた車(KIAのRAY)の値段についてなどなど、参加のみなさんからどんどん質問があり、手をあげて頂いても時間の都合で質問して頂けない方がみえたのが心残りでした。

*セッション2

ソサン市の家族センターでの多文化共生の取り組み紹介や韓国で頑張る外国人の皆さんを紹介するインタビュービデオを観ました。こちらも非常に興味深く、日本からの質問が相次ぎました。



在韓ベトナム人のヘジュさんがビデオの中で、子供に自信を持たせ、私の母はベトナム人だと堂々と言えるように頑張りたい、とおっしゃったのを受けて、鈴鹿市在住の内モンゴル人のスチントヤさんが、「母語はどのように維持していますか?」と質問がありました。

家族センター長のリュ・スンヒさんは、家族センターで取り組んでいる子供の教育や移住女性の支援プログラム、就労支援や女性のエンパワーメントプログラムなどについてお話されました。

それに対し、家族センターの仕組みや国の施策・予算などに言及する質問もあり、日本と韓国の多文化共生への取り組みなども比較して考えることができました。様々な視点から互いの社会の様子がわかり、貴重な話し合いが出来たと思います。

*スピンオフ懇談会

時間が足りなかったので、残れる人だけ残って30分ほど懇談を延長しました。

国際結婚について、嫁・姑問題、韓国の整形事情などの話をして終わりました。

是非第2弾も企画できればいいなと思っています。

*記念写真



災害時多言語支援センターの運営研修をしました

11月20日(土)の午後、NPO 法人多文化共生マネージャー全国協議会の高木さんを講師に招き、災害時多言語支援センターの運営についての研修会を開催しました。

まず、高木さんから「災害時に外国人が直面する課題と ボランティアに期待される役割」の講義がありました。災害時は、外国人被災者からのニーズと様々な機関から出される情報をマッチングさせることが求められること、その拠点として、多言語支援センターが情報発信やニーズ調査、相談窓口の拠点になることを学びました。



(高木さんからの講義の様子)



(本部から情報をやさしい日本語に変換)

SIFA からは、多言語災害ボランティア活動ガイドに基づいて災害時の情報発信のルールや想定している連携機関の確認をしました。

その後、各言語に分かれて、市役所から被災者向けに出された仮情報を翻訳して出す演習をしました。インターネット翻訳を部分的に活用したり、翻訳したものをネイティブチェックしてから出すなどそれぞれのグループで工夫がみられ、演習を通して絆が深まりました。

PC やタブレットなど機器によって USB の接続ができない、やさしい

日本語はいろいろな意見がでるのでまとめていく人が必要など実際にやってみてわかることがたくさんありました。

参加者からは、過去の災害時に困ったことや改善してきたこと、やるべきことなどをもっと知りたいという意見もあり大変有意義な研修になりました。

2月6日には三重県と一緒に図上訓練を行い、県から出される多言語情報を「だれに」、「どうやって」届けるかを考えます。

多言語災害ボランティアにご興味をお持ちの方は、SIFA までご連絡ください。



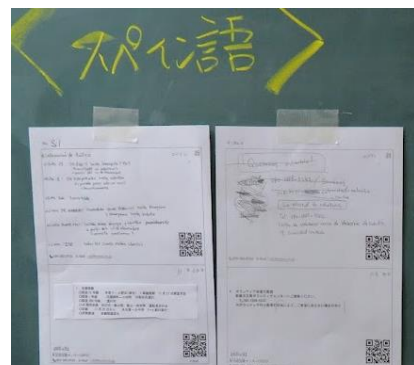
(スペイン語班)



(本部 情報の仕分け)



(英語班)



(スペイン語の掲示)

外国につながる児童の冬休みの宿題支援教室

冬休みは、夏休みに実施していた飯野小学校から河曲小学校へ場所を移し、12月24日～1月6日までの期間に4日間開催しました。

ウインターワークや書初めの他、毎日しなければいけない一行日記や計算カード、九九カードなどにも取り組みました。この冬からは、たくさんの学校でパソコン(クロームブック)を使った宿題も出されるなど、宿題の内容も少しずつ変わってきています。

冬休みは日数が限られていましたが、「年末年始もここまでがんばってしようね。」と声掛けをしたこともあってか少しずつ取り組むことができ、ほとんどの子が宿題を終える事ができました。

保護者向けアンケートで、子どもたちがお家でどんなことを言っていたかを聞いたところ、「楽しかった」や「宿題ができてうれしい」「解き方が分かった」という回答が多かったです。

また今回、河曲小学校地区の民生委員さんや学生さんなど新たな参加者もあり、たくさんのボランティアさんに支えられてこの活動ができました。「国語辞典」と「百科事典」は「じてん」が同じでも漢字が異なる等、子どもについて一緒に時間を過ごすことで支援者にも気づきがあります。

来年度以降も継続していきますので、ご興味をお持ちの方は、SIFAまでご連絡ください。



韓国料理レシピ

ズッキーニのお焼き(ジョン)

材料：

- ・ズッキーニ 1本
- ・玉子2個
- ・小麦粉適量
- ・塩コショウ少々
- *つけだれ
- ・ポン酢適量
- ・すりごま少々
- ・きざみねぎ少々

作り方

- ① ズッキーニは厚さ1センチの輪切りにする。
- ② 卵をとき、フライパンを熱してごま油をしいておく。
- ③ ①に塩コショウをまぶし、小麦粉・とき玉子の順につけフライパンで焼く。
- ④ 程良く焼き上がったら、卵を2度づけして更に焼く。



公益財団法人鈴鹿国際交流協会 (SIFA)

〒513-0801 鈴鹿市神戸 1-17-5 別館第3 TEL: 059-383-0724 FAX: 059-383-0639

✉ sifa@mecha.ne.jp

URL: <http://www.sifa.suzuka.mie.jp>